

田代よいとこーその8ー

カワラノギクを知っていますか？

田代運動公園のちょっと上流の河原に、2000㎡の広さで広がる「カワラノギク」の花畑があるのをご存じでしょうか。これは、NPO法人「愛・ふるさと」のみなさんが2006年から保存活動にあたっていらっしゃるカワラノギクの圃場（ほじょう）です。10月26日（日）にこの圃場でお祭りがありましたので、取材してきました。

カワラノギクってどんな植物？

キク科の二年草で、野菊の一種。生息地は玉石河原に限られていて、花の時期は10～11月。全国でも相模川、多摩川、鬼怒川水系にしか生息しないという絶滅危惧種です。

田代の河原に生息しているのはなぜ？

この圃場のカワラノギクは、もともと八菅橋の河原に自生していたものです。1996年に中津の吉江啓蔵さんが発見し、種の絶滅を心配して観察や保存に取り組んでこられました。その種を「愛・ふるさと」の皆さんが譲り受けて現在にいたっているというわけです。八菅の河原は、ご存じのように車やバイクが縦横無尽に走り回り、適応力の弱い植物にとって生きにくい場となっています。吉江さんの努力がなければ、中津川水系から消えていたことでしょう。「愛・ふるさと」のみなさんの努力で、現在1万本ものカワラノギクが育っています。



これから満開を迎えます

保存活動のようす

2月に種まき、灌水。その後草むしりが続きます。特に夏場の除草作業は大変だということです。花の見頃は、11月中旬。12月に種取りをします。

現在はこういった作業に、会員だけでなく、松蔭大学の学生さんも加わっています。野生のシカの家族（5～6頭）が河原に住んでいて、カワラノギクを食べてしまうのが悩みの一つとか。

子どもたちにとって、カワラノギクの圃場は自然体験の貴重なフィールドです。せっかく学区にあるのですから、親子で行ってみませんか。田代小でも授業の一環として、1年生が近々現地を訪れる予定です。手入れのお手伝いの方も増えるといいですね。

取材協力：小倉大典さん(理事長)、小倉久典さん(理事)、小島環禮さん(理事)

みんなで協力し、楽しい思い出ができました～5年生キャンプ～

9月29日（月）、30日（火）と5年生が愛川ふれあいの村へキャンプへ行ってきました。天候に恵まれ、気持ちのよい2日間を過ごしました。

<児童の作文より> 楽しかったキャンプファイヤー

峯尾 咲那

キャンプ1日目の夜、ふれあいの村の広場でキャンプファイヤーをやりました。歌を歌ったり、おどりをおどったりして楽しかったです。それに、スペシャルゲスト「火の神」が来ました。火の神はもともと雪の女王だったけど、雪にあきて火の神になったそうです。火の神は、キャンプファイヤーに火をつけてくれました。その後、『恋するフォーチュンクッキー』を歌ったりおどったりして、楽しくておもしろかったです。おどった後も、ゲームをしたりして楽しかったです。それにもう一人、スペシャルゲストが来ました。それは、「しもじマッコマン」です。しもじマッコマンは、しもじま先生のふたごの弟だそうです。しもじマッコマンは、楽しくできる体そを教えてくださいました。また、こんなキャンプファイヤーをやりたいです。